

大島郡医師会だより

No.108 2026.1月号

医師会病院
虹の丘
訪問介護事業所
訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
グループホーム虹の丘
養護老人ホームなぎさ園
臨床検査センター

発行
大島郡医師会
奄美市名瀬塩浜町3-10
TEL0997-52-0598
FAX0997-54-0597
印刷 南海日日新聞社



令和8年、新年の辞

大島郡医師会

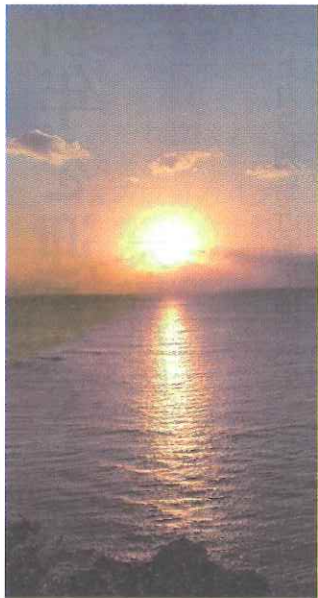
会長 稲 源一郎

賀春
お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年の十干は「丙」、十二支は七番目の「午」、「うま」で、「丙午」です。「午」は十二支の中央に位置し、時刻では正午（午の刻）午前11時から午後1時、方角では南を表しています。「午」は、もともと「杵」の象形文字です。餅つきの臼（うす）と杵（きね）です。杵の上下に交差する動きから「陰」と陽の交差、転換を意味し、十二支の中央に当てられま

した。「馬」は覚えやすいようにと当てられた漢字です。「丙」は甲乙丙丁（こう・おつ・へい・てい）で始まる十干の3番目です。芽が出ていない「甲」から始まり、芽が伸び始め、

「丙」は甲乙丙丁（こう・おつ・へい・てい）で始まる十干の3番目です。芽が出ていない「甲」から始まり、芽が伸び始め、



発芽として明らかに成る段階が「丙」です。つまり昨年は「己年」で再生・誕生の年と書きましたが、今年は発芽が明らかになり、転換となる年です。丙午（ひのえうま）は、丙は火を意味し、馬は行動力を表し、激しい気性を意味します。井原西鶴の「好色五人女」などで、「八百屋お七の放火事件」が取り上げられ、江戸時代から「丙午の女性」は気が強く、夫の命を縮める」といった迷信が広まりました。火事で寺に逃れた際に知り合った男性と恋仲になり、避難後も会いたさの一心で再び火事が起きたら、避難先で会えると恋焦がれ、自宅に放火。ボヤで捕まり火あぶりの刑に処された16歳の娘の話です。その後、歌舞伎、浄瑠璃、落語、漫画に取り上げられ庶民に浸透。結果、丙午の年には出生率が減り、1966年には25%も出生数が減

り、特に女児の出産を避ける傾向がありました。しかし、この迷信は日本だけでなく、犯罪記録に残っていますが、お七が丙午生まれの事実はなく、後に作られたものでした。むしろ、前述の「杵」は上下に交差する所作から男女の「交わり」を意味し、豊年であり、出産の年となることを願います。

＜大島郡医師会としての連携＞

昨年は、念願の本島以外での理事会開催が徳之島で開催できました。今後も他の島での理事会開催と、会員の先生方との対面での懇談を深めていきます。検視や学校医などの状況は本島内でも地域ごとに異なり、他の島での状況は把握できていません。今後の災害時体制、新型インフルエンザ発生時の体制を含めて、いかなる事態でも対応可能となるべく大島郡医師会としての体制づくりが必要と考えています。そのためにも各地域で理事に就任頂き、大島郡医師会としての連携を図る必要があります。

＜血液供給体制について＞

世界遺産認定に伴い、観光客含め流動人口が増加し、交通事故、水難事故を含めた緊急事態が増えている事、また昨今の台風を含む異常気象での空海輸送の遮断による血液供給の不確実性などについて、日本赤十字

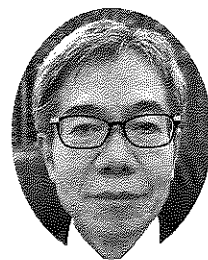
本社に赴き、社長に血液備蓄所の再開を望んでいる旨、陳情しました。開設にあたり法的問題などもあり、事務レベルでの話し合いを継続する事になりました。

＜地域包括ケアシステム＞

各地域での医療・介護・福祉の体制づくりが求められています。これまでの医療を中心とした地域医療構想は、医療についても継続して調整を進めていきますが、今後は介護、精神医療に關しての調整が主となります。大島郡の精神医療に關しては、常勤の精神科医師不在の離島での精神疾患領域の救急に課題があることが指摘されていて、大島郡としての精神領域の連携体制構築が必要と考えています。介護体制の調整に關しては、入院状況のみでなく地域ごとの介護力、施設状況、在宅医療の状況、自宅退院希望者数の把握などの情報が必要であり、医療体制調整と合わせて、介護関係機関・行政との協働が必須です。医療と介護の二軸での地域体制づくりを各地域ごとに考える必要があります。

＜年頭所感＞

各地域に則した体制に配慮し、地域住民の一員として共に満足できる社会づくりに努めます。



新年を迎えて

大島郡医師会病院

院長 満 純 孝

令和8年が明けました。今年はどんな年になるのでしょうか。去年もいろいろなことがありました。

4月～10月まで大阪・夢洲で関西万博があり最後は会場に入りきれないほどの賑わいで幕を閉じました。ミyakミyakなどという可愛いのが変なかわからない人形が出てきて、奄美からは遠いなど思っていたら、周りでも万博に行った人がいたりして入場者が多いというのがよくわかりました。

明るいニュースよりは暗いニュースの方が記憶に残っており、毎年のように大きな地震が起きます。県内では6月か

らトカラ列島近海で地震が続き7月には十島村の悪石島付近で震度6弱の地震があり、その後も群発地震が続いたため住民は島外避難していました。しかし次第に地震も収まり避難していた島民も帰島し10月には「トカラ列島島めぐりマラソン大会」というマラソンツアーが開催出来るまでになり参加してきました。

地震と言えば火事です。2月には岩手県大船渡市で山火事があり鎮火まで1か月以上かかりました。同じ時期に岡山や愛媛でも火事が起きていますし11月には関アジ・関サバで有名な大分市佐賀関の市街地で火事があり180棟以上の住宅が消失しています。奄美でも火事のニュースはよく聞きますが昭和30年には10月に100戸以上が焼失する火事があった後、12月に当時の名瀬市全体の

3分の1にあたる1300棟以上の住宅が焼失する大火がありました。私もまだ生まれていなかったのに記憶はありませんが、その火事を覚えていの方も少なくありません。医師会病院でも年2回の火災訓練を行っており体の不自由な患者さんを安全に避難させるための方法を工夫しています。しかし何より火事を起こさないように注意することが大切です。

政治では7月の参議院議員選挙で尾辻秀久前参議院議長の子・尾辻朋実さんが鹿児島県選出の国会議員として初めての女性議員となり、10月には高市早苗さんが日本初の女性首相になりました。鹿児島県議会も50名の議員のうち10名が女性議員で奄美市区からも松山さおりさんが選出されています。女性の社会進出は保守色の強い鹿児島でも

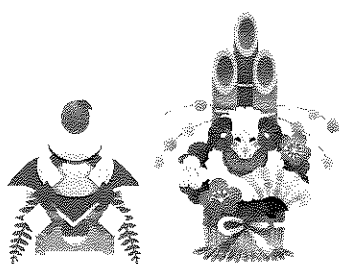
みられています。

その高市首相の台湾有事に対する国会答弁に端を発したとされている中国の対応が問題になっていきます。強烈な表現で非難声明を発し制裁措置を取り始めています。アメリカも台湾に武器売却を決定し中国は反発しています。離島防衛のため奄美大島には陸上自衛隊奄美駐屯地と瀬戸内分屯地があり有事の際には私たちを守ってくれますが、ウクライナや第二次世界大戦で焦土と化した沖縄を見ると戦争で犠牲になるのは一般人も一緒です。何としても戦争は避けたいものです。

若い人の活躍と言えはここ数年真つ先に思い浮かぶのが野球の大谷翔平選手です。昨年はドジャースが2年連続でワールドシリーズを制覇したこともあり、ドジャースの日本人選手山本由伸投手や佐々木朗希投手の活躍も度々テレビで放映されていました。将棋の藤井聡太さんも3年前すべてのタイトルを取り8冠になりました。毎年防衛戦があり戦っていますが、2冠はタイトルを失い現在は6冠

です。それでもすごいと思いますが、勝つのが当たり前になったせいか以前ほどはテレビに出なくなりました。12月には指宿で永世竜王資格獲得祝賀会があり、地元テレビ局で放映されていました。5期連続(5年連続)で竜王になったため永世竜王の資格を得たようです。勝負師として日々研鑽を積んでいるようです。

医療の世界も日進月歩です。時代に遅れないよう精進したいと思います。今年もよろしくお願ひします。





新春雑感

介護老人保健施設「虹の丘」

施設長 喜入 厚

新年あけましておめでとうございます。年を重ねるにつれ時の速さを実感したこの1年でした。さて昨年1年を振り返りますと、東京都議会議員選挙で自民党が歴史的な惨敗を喫し、続く参議院選挙でも自公連立政権が過半数割れとなり、石破首相が退陣を表明し、10月には高市早苗氏を首相とする高市内閣が発足、我が国の憲政史上初の女性首相誕生となりました。その後想定内とはいえず、公明党が高市さんの理念に反旗を翻し連立離脱、維新が与党となり、また中国が高市さんの国会での台湾有事での発言に対して、反発、日本への中国人観光客のキャンセル、日本からの水産物の輸入や中国での日本の芸能コンサートなどの中止など日本バッシングが始まり、先が読めない状況が続いている。またフジテレビの性加害問題も会長と社長が引責辞任するなど一時ニュースのトップで連日報道された。一方大阪・関西万博が4月に開幕、入場者も想定以上で多くの来場者で賑わったよう

である。また例年に無く36℃37℃に達するほどの猛暑が続く高齢者の熱中症による大勢の死亡者が出たが奄美では犠牲者は少なく、暑さに慣れている地方に多く見られた。一方、自然災害も線状降水帯に伴う土砂災害が昨年同様全国各地で見られたのも記憶に新しい。一昨年1月1日に発生した能登半島地震から一年を迎え、被災地では再生復興が進んでいるが、阪神・淡路大震災後30年を迎え防災の意識がいつそう高まり、近い将来起こるであろう南海トラフに備えている。また最近では北海道、本州での熊鷹騒動が連日メディアを賑わし、死者の数も例年を更新して増え、しかも住民が暮らす生活圏内でも出没しており、正しく大きな死活問題となっている。聞くところでは狩猟できるハンターが高齢化にて減少しているようである。海外の主なニュースと言えば昨年に続き多くの犠牲者が出ているロシアのウクライナ侵攻、さらにイスラエルのガザへの侵攻であり、中々収束が見えない。さらに韓国の現職大統領が罷免され、米国ではドナルド・トランプが2度目の大統領に再選され、相互関税が世界に大きな衝撃を与えた。また彼の選挙運動中の演説内容「自分が大統領になったらロシア・ウクライナ戦

争を1日で終わらせる」は見事に裏切られることとなった。スポーツ界では大相撲で3月に豊昇龍、5月に大の里と二人の横綱が続けて誕生し、さらに野球のメジャーリーグでのドジャースの連覇に大きな貢献をした大谷、山本、佐々木の活躍、しかも大谷は3年連続のMVPを獲得、同じ日本人として大きな誇りとなったが、日本のプロ野球界の大御所であり、昨年亡くなられた長島の時代から大の巨人ファンとして自他ともに認めた私にとっては巨人から大きな変換時期となった大谷の所属するドジャースのテレビ観戦が毎日の楽しみとなり、ワールドシリーズは特にテレビにくぎ付けとなった。また社会は少子高齢化がますます進み、生産年齢人口の人口減に伴い、タクシーの運転手不足によるライドシェアが都市部で昨年に続き日常化しているが、各業界でロボットの活躍を目にする機会が増えていくが、多くの事業で人材不足に伴う営業継続が困難となっている。我々医療介護の世界でも団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり始めることで、医療・介護体制の不足や社会保障費の増大といった「2025年問題」がより深刻な社会問題となった。さて、当施設の昨年度を振り返ると地域の皆様に支えられ開設30周年を迎えられ、11月に盛大に式典が行われ、前半は今村先生による記念講演、夜間に記念式典を行ったことはつい最近の出来事である。その時の今村先生の御講演は「高齢者介護施設のための最新情報―医療・介

護限界社会を勝ち抜くために」と題しての内容で地域包括ケアシステムを念頭に置いた今後2040年に向けての老健の在り方を丁寧な解説頂き、大変勉強になりました。さて2040年すなわち15年後には3人に1人が高齢化し、同時に介護人材が70万人不足するとの推計がある。今年度「団塊の世代」が75歳以上を迎える一方、生産年齢人口は減り続けている。良質な介護サービスを提供しつつ、人材不足に対応していくことが我々老健施設に課せられた喫緊の課題となっており、そのような状況下で、ICT化による業務の効率化・生産性向上・介護DXの推進・職員の負担軽減が介護人材の獲得、定着の大きなポイントとなっている。現在虹の丘でも職員の負担軽減のために入浴施設を今までの1か所から各階に新たに造設し計3か所とし、またフイリピンからの特定技能実習生3名が昨年7月から配属され、さらに9月末から介護ロボット10台が導入され業務改善に踏み出しているところである。また人手不足、高齢化によるサービスの膨張による創設25年目の介護保険の持続が危惧され、その対策案として職員の賃上げをさらに進めての人材確保、介護予防、重度化防止施策推進などが検討されている。このように後期高齢者が増え続ける事を想定しての「地域包括ケアシステム」の構築が社会制度改革で法文化され12年目に当たるが、地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるこ

とができるよう、医療介護、予防、住まい、生活支援が包括的に確保される体制が構築されることであり、まさに老健施設の役割そのものであり、在宅支援のための施設であり、リハビリを提供し、機能維持、回復の役割を担う施設と定義されている。具体的には入所サロニス、ショートステイ、通所リハビリ、訪問リハビリなどがそれぞれにあり、地域のかかりつけ医と連携しながら、療養、リハビリ、薬剤の情報を共有し、リハビリ、一定の医療、認知症ケア、看取りやターミナルケアにも対応する。また退所後も、通所リハビリ、訪問リハビリ、ショートステイなどを活用し、高齢者が元気に、また希望を持ちながら住み慣れた地域で生活を営むことができるよう、様々な専門職が配置されている老健施設こそが地域を支え、高齢者の人生の最高の伴走者になり得るであろう。在宅医療推進地域支援事業が着々と進む中で、我々老健はその中核施設として、医療との連携を図りながら地域コミュニティの介護リハビリの担い手として更なる在宅支援の強化、施設の多機能化をはかり、地域へ貢献していくかなければならない。そのことが変わりゆく老健の大きな使命となるものと思われまします。これから40周年・50周年と時代の変化に対応しながらも、職場の基本理念「誠意・優しさ・信頼」を大切に高齢者の拠り所となるべく努力を続けたいと思います。本年もよろしくお願ひします。



年頭のごあいさつ

社会福祉法人 蒼寿会

養護老人ホーム なぎさ園

施設長 山下能久

新年あけましておめでとうございます。お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年も引き続きなぎさ園運営へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

私は、令和7年4月に施設長に就任しましてから、早や9カ月が過ぎようとしております。なぎさ園は、平均年齢80代後半の入所者が、約60人で共同生活を営む養護老人ホームでございます。

とに、驚きと喜び、時には悲しみに遭遇する日々を過ごしているところでございます。

さて、施設長の業務は、入所者の皆様の安全・安心を前提に、この養護老人ホームを適正に安定した運営をしていくことだと認識しております。このことから、施設管理、予算管理はもとより、職場環境の改善には、特に力を注いで参りましたが、まだまだ道半ばでございます。

毎月職員会が開催されますが、その冒頭、職員全員で「蒼寿会の使命」を朗読します。この使命は、平成20年に社会福祉法人蒼寿会の設立の際、当時の理事長であります向井奉文先生が作成されたとお聞きしております。10

項目からなる使命であります。今回は、2つ紹介させて頂きます。1つ目は、「福祉に携わるプロフェッショナルとして、ご利用いただく皆様のご要望に的確にお応えし、慈愛に満ちたおもてなしの心で職務に邁進します」。2つ目は、「ご利用いただく皆様が今日も充実した一日を過ごしていただくかどうか、職務の充足度の指標とします」としてまいります。この使命の朗読をする度に、入所者が充実した一日を過ごしていたただけたかどうか、という問いに対しては、まだ答えがでていないところであります。

当園の入所者につきましては、80代後半であり、午後にはレクリエーションの時間も設けておりますが、身体的なことからなかなか外出もままならない日々を送っております。そのような中で、園内から見える庭が少しでも草に覆われないように、草

刈りや窓の清掃にも努めてきたところであります。なぎさ園では、年に数回、入所者との話し合いをしてまいります。これは、入所者が園に対して改善して欲しいことや、疑問に感じていることなどをお聞きし、今後、園の運営に反映させるためのものであります。

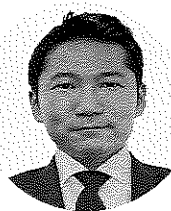
去る12月3日に開催された話し合いの最後に、入所者から「感謝しかありません」という言葉をいただきました時には、感激で本当にこの仕事に就いてよかったと思うと同時に、職員の日ごろの努力に対し、感謝した次第であります。

さて、なぎさ園の中庭には、設立当初の朝仁地区にありましたクロガネモチノキが移植されております。この木は、モチノキの仲間で、若い枝や葉柄が黒ずんでいることから名づけられたそう、実際の赤さはモチノキより際立って見え、「クロガネ

モチ」が「金持ち」に通じることから縁起木として好まれる庭木であります。今年も花の時期を終え、赤い実がたわわに色づいております。

最後になりますが、この縁起を糧に、入所者の皆様がこれまで以上に充実した日々を送れるよう、職員と伴に努力して参りたいと存じますので、ご協力をお願いし、挨拶と致します。





新年のあいさつ

大島郡医師会臨床検査センター

責任者 平田 龍

新年あけましておめでとございます。

大島郡医師会臨床検査センター責任者の平田 龍と申します。

2025年も大島郡医師会の先生方には温かいご指導を賜り深く感謝致しております。この度も本稿への掲載のお声掛けを頂きましたので、誠に僥越ではございますがご挨拶を申し上げます。

近年、当センター全体では、医療・健康・環境に貢献する専門の検査・分析センターとして在り続けるためにセンター運営や業務におけるDX化、健康的な職場環境作りにも職員一同、力を合わせております。その一つとして、センター内の大型モニターを活用したパソラボグ

ループ・鹿児島臨床検査センターとのWEB通信は、センター職員間の連携が計られ、職員の間でも良い効果を生み出し始めており、安定した検査センター運営に結び付けられるひとつの取り組みとなっております。

ここからは部門ごとの取り組みについてご紹介させていただきます。

健診部門におきましては、島内で唯一の専門の健診事業センターであるという責務を念頭に、奄美群島の住民の皆様の健康に寄与できるように健診の確実な実施と受診勧奨を行う必要があるという気持ちから、新たな健診の場として、2021年より被扶養者限定となります。まず集団健診を開始致しました。手探りでの勧奨方法であり、認知されにくかったためか、私どもの予想に

反し、初めは受診率が低かったため、健診内容や結果報告相談会、受診勧奨の方法について1年1年検討や改善を積み重ねて参りました。その結果として改善活動が実を結び、現在では開始当初よりも受診者数は増加傾向でございます。こちらの案内につきましては、ご自宅宛てにチラシが届きます。どのようにすればよいかご相談されたい方がいらつしやいましたら当センターにてお問い合わせをお受けします。お気軽にご連絡ください。

また、2026年も生活習慣予防健診や若年層の健診等において内容が変更され、検査の追加も予定されておりますので、情報を収集し正確に把握した上で、当センターでの役割を全うできるように現在、準備を進めております。

検査部門につきましてはご紹介させて頂きます。検査部門では、精度管理を第一に、正確かつ迅速な検査結果報告に日々努めておりますが、近年は、検査室の業務分散化にも取り組んでおります。通常はルート集荷を行う職員の中

でも検査項目や検体の取り扱いについて知識が伴った職員には、検査技師による専門的な検査や検査結果値の最終確認以外の検査室内の業務である検体の分注や検査機器への検体のセット、依頼書の入力業務や検体搬送準備などの補助業務の習得に努めてもらっております。

補助業務を習得した職員が増えることで、検査技師が検査関連の情報収集や先生方の元へ訪問させて頂く時間を作ることができ、大島郡医師会の先生方へ検査に関するご案内や先生方からのご要請に対してもより一層、細やかな対応が望めると考えております。そして、検査センターの発展や体制強化にも繋がるものだと思いますので、挑戦し続けていきます。

検査の話題と致しましては、2026年2月21日には、鹿児島県臨床検査技師会の主催で、奄美大島にて臨床検査技師会会員向けの血液分野の講演会開催が予定されております。当センターもお手伝いを通して参加させて頂き、交流を深め、知識の向上、検査

センターとしての成長へと繋げて参ります。

最後になります。2026年の干支は丙午「エネ」年「と言われている年」と言われております。健康こそがその基盤であり、私ども職員一同、奄美群島の皆様の医療・健康・環境に貢献できるように研鑽を積んで参ります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



虹の丘開設30周年記念「市民公開講座」



介護老人保健施設・虹の丘の開設30周年を記念した「市民公開講座」が、令和7年11月23日(日)14時30分から16時30分まで開催され、市民や医療・介護関係者ら約100名が参加した。

今回の講座のテーマは、「高齢者介護施設のための最新情報～医療・介護限界社会を勝ち抜くために～」。講師には、公益財団法人慈愛会 理事長 今村英仁先生を迎え、国の最新動向から2040年を見据えた地域のあり方まで、幅広い視点での講演が行われた。

講演ではまず、国が示す「2024年に向けたサービス提供体制等のあり方検討会」の内容を踏まえ、これからの介護は「施設だけで

完結するものではなく、社会全体で支える介護の社会化が不可欠である」と強調された。特に注目を集めたのは、人口減少が進む地域としての奄美大島の立ち位置だ。今村先生は、「医療資源・人材に限られる地域だからこそ、地域医療等連携機能の強化が重要になる」と指摘。その実現のためには、ICT機器の導入はもはや選択肢ではなく必須条件であると語った。

また、いわゆる「2025年問題」の次に控える『2040年問題』についても言及。「人は確実に減る。その中で、医療と介護が分断されたままでは地域は持たない」とし、これからは在宅復帰だけにとどまらない『在宅生活支援』という視点が求められると述べた。2040年に向けて、地域の中で医療・介護施設がどのような役割を担うのか。その答えとして今村先生は、『2040年に適した地域包括ケア』と『医療と介護の真の連携』を掲げ、「地域の実情に合った形を、今から本気でつくっていく必要がある」と参加者に呼びかけた。

虹の丘が30年にわたり地域とともに歩んできた歴史を振り返ると同時に、これからの10年、20年を見据える大きな指針を示した今回の市民公開講座。参加者一人ひとりが、自らの立場で「地域の未来」を考える貴重な機会となった。

「虹の丘開設30周年」式典・祝賀会

奄美大島初の老健施設として平成7年12月1日に開設した『虹の丘』は、今年で30年の節目を迎えました。それを祝し、11月23日(日)に奄美観光ホテルにて「虹の丘開設30周年式典・祝賀会」を開催いたしました。式典には、当日市民公開講座にて講演して頂いた慈愛会の今村理事長をはじめ、大島郡医師会の理事の先生方や行政、お取引先様の皆様、職員も含めて約150名の方にご参加頂きました。

式典では、大島郡医師会の稲会長による式辞に続き、虹の丘の喜入施設長による挨拶、慈愛会の今村理事長、奄美市保健福祉部福祉事務所の喜納様によるご祝辞を賜りました。その後、30年勤続の8名の表彰があり、30年という月日の長さ、その功績が称えられました。式典の後に開催された祝賀会では、道の島太鼓による迫力ある太鼓演奏に始まり、阿波踊り奄美連の阿波踊り、唄、踊り、モノマネなど様々な職員余興、締めは島のブルースからの虹の丘音頭と六調で大いに盛り上がりしました。

式典・祝賀会に参加して感じたことは、虹の丘の30年という歴史の中には、その開設段階から多くの



の方々が関わり、思い出とともに、様々な想いがあるということです。現在働いている職員として、その想いを受け取り、虹の丘という施設を、変化に対応しながら次の世代に繋いでいく、それこそが私たちに求められる使命なのだと感じました。



第65回全国国保地域医療学会に参加して

国民健康保険宇検診療所 所長 恵 浩一

皆さま、うがみんしょーらん。国民健康保険宇検診療所の恵浩一です。去る令和7年10月に「第65回全国国保地域医療学会」に参加してきましたので報告いたします。奄美大島は特に国保の診療所が多い地域となっており、喜界町、奄美市笠利、奄美市住用、大和村、瀬戸内町、そして宇検村にそれぞれ診療所があり、地域の医療を担っています。

今回なぜこの学会に参加しましたかといいますと、もちろん学びのためでもあります。令和9年の10月に第67回の全国国保地域医療学会が、鹿児島県で開催予定となっています。鹿児島県の国保連合会の施設協議会の役員をしていますので、その学会開催にむけた下見という目的もありました。

開催地は和歌山県でした。私も人生で初めての和歌山県でしたので、準備の段階から楽しみでした。当日は、全国各地から大勢の方々が集まりました。各市町村の市長、町長、村長などの話もあり、大変有意義な時間となりました。それぞれの自治体が、それぞれの自治体の規模にあった福祉活動を展開していることを改めて確認でき、宇検村に還元できることも多くありそうだと感じました。学会の終わりに、地元のタクシードライバーに教えてもらったお店で、おいしい和歌山ラーメンをいただき、知識もお腹も満タンにして帰ってきました。

最後に、第67回の全国国保地域医療学会の成功のためには、各国保診療所の医師やスタッフの方々、および各市町村の保健福祉課の職員の方々の協力がかかせません。そのほかにも、自治医科大学出身の先生方や、鹿児島大学医学部の地域枠を卒業された先生方の協力が必要です。ぜひ、この文章を読まれた医療関係者の中に、そのような方がおられましたら、きたるべく2年後の鹿児島での全国学会に向けて、まずは心の準備をしておいてください。私や、事務局の方から、声がかかることが予想されますので、その際にはぜひご協力を宜しくお願い致します。



宇検村役場保健福祉課課長、保健師とともに会場前にて

「ハラスメント防止研修会」を開催しました

11月17日、大島郡医師会病院3階講堂にて「ハラスメント防止研修会」が開催されました。事業所全体での研修会ということで、管理・監督職者を対象に、医師会病院、虹の丘、なぎさ園から約50名の職員が参加されました。講師は、公益財団法人慈愛会危機管理室の中野誠室長。中野様の前職は鹿児島県警の警察官として長年勤められ、現在危機管理室で患者・職員のトラブル、安全対策・コンプライアンス対応など担当され、職場内でのハラスメント防止、困りごと対応など職員が働きやすい職場を提供するということを目指しているとのことでした。

今回の研修会目的は、近年職場におけるハラスメント防止は、企業のコンプライアンスや職場環境の健全化において極めて重要な課題となっており、特に管理・監督職員には組織の中核としてハラスメントの未然防止や早期対応職場全体の意識醸成において大きな役割を担ってもらうためです。職場における3大ハラスメントであるセクハラ、マタハラ、パワハラについて、ハラスメントが職場に与える影響や、それぞれの「ハラスメントの具体例」、「ハラスメント起こさないために」では、コミュニケーションと報・連・相が大切であることなど慈愛会での防止対策として取り組まれていることや事例を交え丁寧な説明をしていただきました。職員からの質問では、ハラスメントを受けているという相談を受けたが、「本人には絶対言わないで欲しいと言われ、どのような対応が望ましいのか」また、「昇格推薦をしてもなかなか引き受けてくれる方がいない時、どこまで強制していいのか」などの質問がありました。

アンケートでは、パワハラについての意見が殆どでしたが、「パワハラという言葉が頭にあるとコミュニケーションを取るにも躊躇することがある」「自分の発言がパワハラになっているのでは」など、パワハラ3つの要素(①優越的な関係を背景とした言動、②業務上必要かつ相当な範囲を超えたもの、③労働者の就業環境が害されるもの)があることや、最もシンプルな判断基準が、「部下への指示が、部下に補助してもらっている仕事を実際に、具体的に前進させたのか否か」がパワハラ判断基準であること。今回の研修で基本的な知識や事例などを多職種で共有できたことがとても良かったと思いました。



【第68回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ:

「大島郡医師会における医科・歯科・介護連携の取り組みについて」

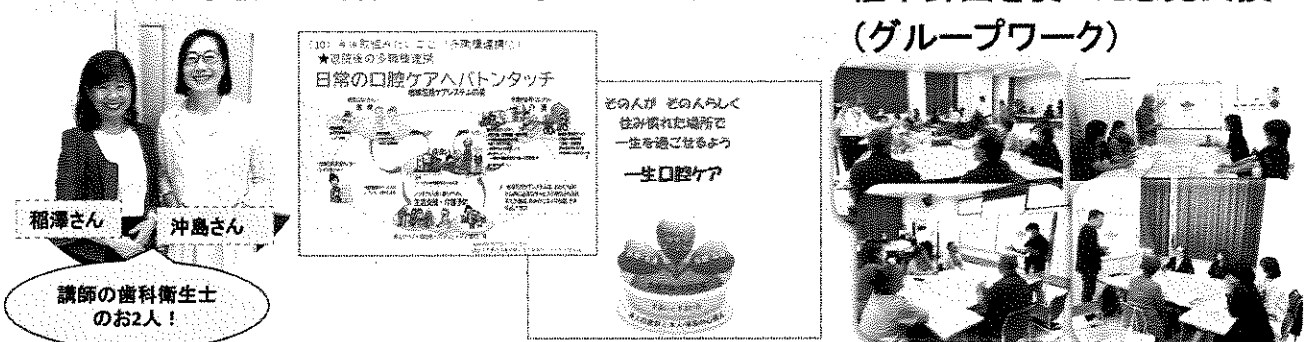
開催日時: 令和7年10月27日(月)18時30分～20時 於: 大島郡医師会館4階ホール

1. 講話「大島郡医師会における医科・歯科・介護連携の取り組みについて」

講師: 稲澤 裕子 歯科衛生士(大島郡医師会在宅医療連携支援センター)

沖島 敬子 歯科衛生士(大島郡医師会病院)

2. 植木鉢図を使った意見交換 (グループワーク)



令和7年10月27日(月)に第68回地域包括ケア交流会が開催されました。今回のテーマは「大島郡医師会における医科・歯科・介護連携の取り組みについて」ということで、大島郡医師会に所属する歯科衛生士のお2人がそれぞれの部署での取り組みを報告していただきました。お2人が歯科医師会のモデル事業で医師会病院内に事務所を構えたときが2015年ですが、あれから10年がたち、またその節目に鹿児島県から歯科の取り組みに関して医師会が表彰状をいただいた(医師会だより7月号)ことも記憶に新しいところです。稲澤さんからは地域での訪問歯科診療や口腔ケアの相談における連携や口腔に関する講話の活動について、また沖島さんからは医師会病院に新たに加わった歯科診療における口腔ケアの実践や多職種との連携に関する取り組み等を事例を交えて紹介していただきました。当日は医科の先生方はもとより歯科医師の先生方もご参加くださり、後半のグループワークでは歯科口腔に関する質問が飛び交うなど、大いに盛り上がりしました。

第8回 奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会

令和7年11月20日(木)19時～20時30分 於: 奄美市役所5階大会議室

テーマ: 「身寄りがない方への支援」について

(内容)

1. 在宅医療・介護連携推進事業報告
2. 在宅医療・介護連携推進事業における「身寄りがない方への支援」の現状報告と今後の取り組みについて
3. 意見交換: 「身寄りがない方への支援」について工夫していること
4. 今後の協議会について

3年目にあたると今年度でこのテーマはひとまず終了

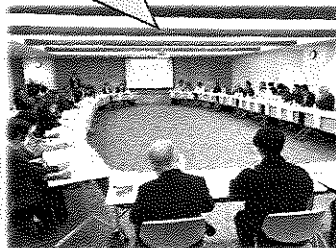


開会挨拶 久保 岳大 会長
(龍郷町地域包括支援センター長)



～司会進行&報告等～
笠利地域包括支援センター
宇検村地域包括支援センター

【今後の取り組みについて】
「奄美大島・喜界島『見寄り』がない方にチームで関わるための手引き(案)」の紹介



第8回奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会(市町村委託事業)が開催されました。この会は名瀬保健所管内において医療と介護の連携を推進し地域包括ケアシステムを構築して地域住民の福祉の向上を図ることを目的に設置され、年に1回開催している会となります。令和5年度から3年間、テーマを「身寄りがない方への支援」として開催してきましたが、今年度が最終年度となり、今後の取り組みとして「奄美大島・喜界島『見寄り』がない方にチームで関わるための手引き(案)」作成の計画の紹介などがありました。また、意見交換では参加された皆様から工夫していることや課題について、大変貴重なご意見をいただき、職種や機関を超えて連携・協働していく必要性が共通認識として共有されました。閉会の挨拶で医師会長の稲先生は、住民の方々へのACPの普及啓発、多職種多機関がお互いを補完し合えるような関係性の構築、関係者が1人で抱え込まないような連携のあり方、等について述べられ、この協議会が、住み慣れた地域で最後までというみんなの共通の想いを実現できるような会であって欲しい、またそのために利用して欲しいというお言葉を会を締めくくられました。



閉会挨拶 稲 源一郎 医師
(大島郡医師会会長)



★参加された皆様から貴重なご意見をたくさんいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

令和7年度鹿児島県ソフトボール協会大島支部主催社会人ナイターソフト秋季大会 大島郡医師会病院チーム(B級)・虹の丘30周年チーム(E級)



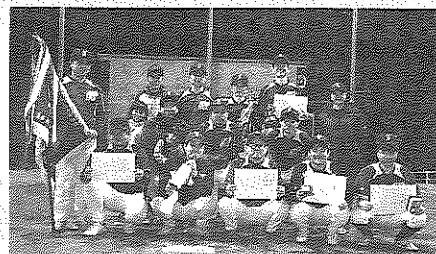
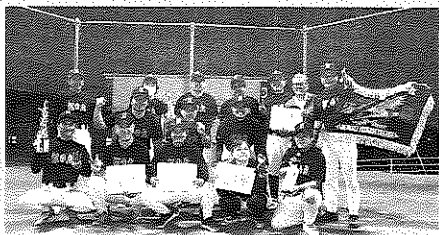
アベック優勝!!



9月29日から開幕した社会人ナイターソフトボール秋季大会、A-E級の5クラスに57チームが出場。創部30年以上の歴史を誇る両チームですが、大島郡医師会病院チームは過去2回優勝経験があり、来季はトップクラスのA級へ見事昇格、虹の丘チームは名のとおり創部30年にして最下級クラスではありますが初優勝、

開設30周年に花を添えることが出来ました。ナイターソ

フトは最盛期には120以上のチームが出場し、医療・介護関係のチームも複数参加しておりましたが、現在、医師会の両チームと奄美病院が、職員参加チームとして継続しております。今後もスポーツを通して健康的な職場環境に結びつけたらとの思いで頑張っておりますので、応援よろしくお願いします。



大島郡医師会病院V(労福協・ろうきん杯 バレーボール大会)

11月22日に開催された第32回労福協・ろうきん杯バレーボール大会A級に出場した大島郡医師会病院Aチーム。決勝戦、瀬戸内職労チームにセットカウント2-0でストレート勝ちし、見事優勝を飾り、最優秀選手賞には、理学療法士の部當大尊さんが選ばれました。おめでとうございます。医師会病院チームは、9月21日に行われた社会保険バレーボール大会でも優勝しております。



なぎさ園だより

運動会

令和7年10月13日

10月13日、運動会を開催しました。当園恒例の聖火リレーで幕を開け、競技が始まると普段からは想像できない程の集中力で真剣に取り組んでおりました。応援にも声が出ていて、マイク実況が聞こえない場面が多々ありました。ご家族も参加され、笑いにあふれた楽しい運動会が行われました。



園外レクリエーション

令和7年12月5日

12月5日に園外レクリエーションに行きました。住用の世界自然遺産センターを見学したあと宇検村の宇検食堂で昼食をとり、久しぶりの外食に参加された皆さんはとても喜ばれていました。午後からは焼酎れんと工場見学に行き、焼酎のできる工程を教えてください、皆さん熱心に聞かれました。焼酎の試飲も楽しまれました。





奄美の薬草

薬草研究

奄美の自然を考える会顧問 田畑 満大

<シイタケについて>

シイタケが多く使われる時期になってきました。今回はシイタケについての情報資料を紹介したいと思います。それ位はよく知っていると言われるそうですね。うまみ成分の「グアニル酸」が豊富に含まれ、昆布のうまみ成分「グルタミン酸」やかた節の「イノシン酸」との相乗効果を高める働きがある事や栄養価についてはよく知られている事です。あまり知られていない事や栄養面も交えて紹介したいと思います。キノコ類でどの科に属しているかを話してみます。以前は色々な科に属していましたが、DNA解析などの研究が進み、独立した科として「シイタケ科：2017年」が新しく設立されました。シイタケ科シイタケ属シイタケで、まだ、キシメジ科で記載している方も多いようです。一般に定着するまではどちらでもいいのでは？。それより、色々な資料を整理してみますと、シイタケに秘められた力として：薬効・栄養としての利用面から見ますと「うま味」を持つだけでなく、古くから「生薬」として用いられ、近年ではその特異的な健康効果が科学的に解明されつつあるようです。



1、シイタケの効能

(1) 効能○主要な働きと有効成分：骨の発育促進作用に効果があるとされるビタミンDが豊富で、カルシウムの吸収を助け、骨粗鬆症の予防に有効です。日光に当てることでビタミンD量が大幅に増えます。○コレステロール・血圧降下作用：エリタデニンが血中コレステロールを下げます。アデノシンや4-アミノ酪酸(GABA)などが血圧を下げる作用に関与しています。(2) 血小板凝集阻害作用○「血液サラサラ効果」がキノコ類の中でも強く、心筋梗塞や脳梗塞の予防に関心が寄せられています。グアニル酸も有効成分の一つと考えられます。(3) 抗酸化作用○エルゴチオネインなどの成分を含み、ビタミンCと同等あるいはそれ以上の強い活性酸素消去作用があり、細胞の老化や癌化を防ぐ効果が期待されます。(4) 肝障害抑制作用○肝障害の指標となるGOT・GPT酵素の活性を抑制する効果が動物実験で報告されています。(5) レンチナン(抗がん剤として認可)による免疫活性化や、遺伝子の突然変異を抑制する作用が確認されています。(6) 高インフルエンザ作用○胞子に多く含まれるリボ核酸が、インフルエンザの感染を阻止するインターフェロンの生成を誘導します。

2、生シイタケと乾燥シイタケの比較

*水分と栄養：(生) 水分が多い。(乾燥) 水分が抜け、栄養素が凝縮されている。*ビタミンD：(生) 比較的少ない。(乾燥) 生シイタケの50%以上(紫外線で生成)*食物繊維：(生) 豊富、(乾燥) 含有量が格

段に増加(乾燥重量の約40%) *うま味・香り：(生) 控えめ(乾燥) グアニル酸が増加、特有の香り成分レンチオニンが強まる。*保存性：(生) 日持ちしない(2~3日目安)、(乾燥) 長期保存が可能

3、調理・摂取のポイント

*ビタミンDの増加：使用前に20~30分日光に当てると、ビタミンDの含有量を大幅にアップできます。*栄養素の効率的な摂取：ビタミンDは脂溶性のため、炒め物や揚げ物など油と一緒に摂ると吸収率が上がります。ビタミンB群などの水溶性栄養素を逃さないよう、煮汁ごと食べられる味噌汁やスープがおすすです。*摂取目安：健康効果のためには、食べ過ぎに注意し、生シイタケは1日4つ、乾燥シイタケは1日2つを目安とすると良いでしょう。

4、伝統的な利用

中国医学における生薬としての利用：中国医学では、蕈香(しんこう)と称され、生薬として用いられてきました。薬効として、益気(胃腸の働きを整え、病気への抵抗力を高める)。健脾(脾臓を健やかにする)。健胃(胃の働きを盛んにする)。化痰(胃や呼吸器系の停滞した水や痰を排出する)。適応症：貧血や高血圧にも効果があるとされてきました。

5、シイタケ特有の生理活性物

近年ではその特異的な健康効果が科学的に解明されつつあること柄を紹介します。シイタケは、他のキノコには見られない、または特異的に多く含まれる重要な成分が単離されています。○レンチナン(Lentinan) 抗癌作用：beta-グルカン的一种で、がん細胞の増殖を抑える効果が確認されています。食用キノコから抽出された唯一の抗がん剤として、1985年に厚生省の承認を得ており、現在も医療現場で使用されています(免疫強化による間接作用)。含有量：傘が開き始める頃に最も多くなり、採取後は比較的速やかに減少するため、新鮮なものの摂取が推奨されます。○エリタデニン(Britadenine) 脂質代謝改善：コレステロール値の降下作用があり、血中の悪玉コレステロール(LDL)を下げ、善玉コレステロール(HDL)を高める働きがあります。○エルゴステロール：ビタミンD前駆体：日光(紫外線)に当たることで体内でビタミンDに変化し、骨の健康をサポートします。

6、健康被害に関する注意点

シイタケ皮膚炎：生シイタケ、または加熱が不十分なシイタケを食べた場合、アレルギー反応として掻痒の強い紅斑や丘疹が体幹部に発生することがあります。掻いた跡に一致した線状の皮疹(線状の皮疹)を呈するのが特徴です。シイタケの健康効果と調理・保存のポイント：シイタケの機能性に関する研究は多岐にわたり、現代病の予防に役立つ多くの効能が報告されています。

以上のような情報を拾って見ましたが参考にして、「シイタケ」の活用についてもっと深められるように、考えるきっかけになればと思います。

学術講演会・研修会等のご案内

- ◆1月10日(土) 14:00~18:00
大島郡医師会館・宮上病院・朝戸医院・龍美クリニック
【かかりつけ医うつ病対応力向上研修会】(日医認定産業医研修会/認定医4単位)
- ◆1月14日(水) 18:30~20:00 県医師会館&Web
【令和7年度HTLV-1対策講習会】
- ◆1月16日(金) 19:30~20:30 医師会館4Fホール&Web
【大島郡医師会学術講演会】~認知症治療の現状と課題~興和株との共催
- ◆1月17日(土) 13:00~14:40 アマホームPLAZA
【市民公開講座】~知っていますか?脳の健康!!~エーザイ株との共催
- ◆1月22日(木) 19:00~20:15 県医師会館&Web
【令和7年度 鹿児島県医師会防犯協議会特別講演会】
- ◆1月23日(金) 19:00~20:15 県医師会館&Web
【第29回乳がん検診研修会】
- ◆1月24日(土) 18:30~ 奄美市役所5F
【令和7年度 在宅医療連携支援研修会】
- ◆1月25日(日) 14:00~15:00 県医師会館&Web
【令和7年度 HTLV-1対策講演会】
- ◆1月29日(木) 19:00~21:00 県医師会館&Web
【令和7年度 第3回かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会】
- ◆1月30日(金) 19:00~20:00 医師会館4Fホール&Web
【DUAL Seminar 大島郡医師会糖尿病学術講演会】住友ファーマ株との共催
- ◆2月1日(日) 13:00~17:45(予定) アマホームPLAZA
【第2回 奄美地域医療シンポジウム】
- ◆2月5日(木) 19:00~20:30 県医師会館&Web
【令和7年度 小児在宅医療推進研修会】
- ◆2月6日(金) 18:30~20:15 県医師会館&Web
【第37回大腸がん検診研修会】
- ◆2月21日(土) 14:00~16:30 AiAiひろば2F
【令和7年度 災害時多職種連携研修会】

奄美の医療雑話

〈70〉

『ありし日の「島尾敏雄」を語る』

元名瀬市立奄美博物館長 林 蘇喜男

私が島尾さんの短編『島の果て』を読んだのは、島尾さんが奄美の名瀬に住みついた時に新進の文学に触れる機会でもあり、書店で見つけた。「むかし、世界中が戦争をしていた頃のお話なのですが…」

島尾敏雄さんが、奄美大島に転居されたのは、昭和三十年の十月、三十八歳。島尾敏雄著の『島の果て』非小説集成「第二巻」に「奄美の文化活動の現状」の中に奄美文芸研究会について、次のように記述されている。昭和三十六年の暮れに、名瀬市内の文学に心を持つ若い人々たちによって、奄美文芸研究会が設けられ、機関誌発行準備のための会報まで出していたのに実らずに解散しました。(これは、私と数名の方々が取り組んだのを記述されたものであります。)

「奄美郷土誌研究会の設立について」当初は、「奄美史談会」の名称であった。会員は、文英吉・大山麟五郎・田畑英勝・平和人・島尾敏雄の五名。しかし、九学会連合の三年間に及ぶ活動等も機縁となり、当初の史談会について相談会開催を考慮しております。日時は、昭和三十三年一月十七日午後七時。場所は、奄美日米文化会館。当時の出席者は、総員十八名で、島尾さんが日米文化会館長としてコメント

ンテーターの役割を果たしておりました。私は、「奄美郷土研究会」の会員の一人として、島尾敏雄さんから次のようなコメントをいただいた。「あなたの下の名前「ソキオ」のことが気になります。漢字の蘇喜男は、勿論父親からの命名でしょうが、大変に素晴らしい名前です。蘇はよみがえるという意味です。喜はよろこぶ。男は元氣になっている男です。名前に負けないように頑張ってください」。

編集後記



明けましておめでとうございます。大島郡医師会だより第108号をお届けします。通し一週間の挨拶になります。本年は、昨年の振り返り、政治経済の変化や国際情勢の不安定さをスポーツや文化の輝きに励まされた一年だったと感じます。◆当医師会では7年度に入り4月に鹿児島県医師会執行部、大島郡医師会執行部並びに奄美保健医療圏12市町村自治体首長や担当職員を含む総勢45名の出席による現地懇談会が14年ぶりに医師会館にて開催され、新たな地域医療構想を主に奄美地域の医療介護の課題について有意義な懇談となりました。また、10月には6

年ぶり徳之島での理事会が開催され、それに合わせ日医の認定産業医研修会や現地の医療機関の皆さんとの親睦を深めることが出来ました。翌11月には介護老人保健施設「虹の丘」開設30周年記念祝賀会が開催されイベント続きの年でした。◆2025年問題が過ぎ、団塊世代二世が高齢者となる2040年問題に向けての地域医療構想では医療と介護の連携が重要視されています。生産年齢減少が進む中、大島郡医師会関係の共同利用施設である医師会病院・虹の丘(老健・グループホーム)、臨床検査センター、養護老人ホームなぎさ園との連携を更に強化し、地域に必要とされる施設として邁進していく所存でございます。◆長年ご寄稿続けていただいております林蘇喜男先生、田畑満大先生をはじめ、ご執筆をお引き受けて頂きました皆様、ご協力ありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(医師会本部T・N)